

# 博物館だより

No. 6

企画展 「古墳のまつり—はにわ—」

平成元年7月22日(土)～8月31日(木)



松阪市常光坊谷4号墳出土の巫女埴輪 (松阪市教育委員会蔵)



### 松阪市常光坊谷 4 号墳出土の埴輪

常光坊谷古墳群は、松阪市の西部、岡本町の標高42～57m前後の丘陵尾根上に位置する古墳群で、5基が確認され、昭和63年に発掘調査が行われました。そのうち常光坊谷4号墳は、径17.5m、高さ4.6mの円墳で、円筒埴輪が、墳丘の東半分で1.2mの間隔をおいて並び、西半においても周溝や墳裾から円筒埴輪片が多数検出されており、円筒埴輪が墳丘を囲むように並んでいたと考えられます。

形象埴輪は、墳丘をめぐる円筒埴輪列の内側からは発見されず、南側の周溝部分で集中的に発見され、人物5、馬2、鶏2、家1の計10点がほぼ完全な形で復原されました。

人物埴輪のうち、巫女（表紙写真）は上衣の上に襲をまとい、前にV字状のひもが描かれ、頭を島田髷風に結び首飾りを付けています。男子（写真1）は、髪を美豆良に結び、目の下に入れ墨があり、あごひもや腰の帯も描かれています。鶏形埴輪（写真2）は、円筒部に鶏をのせた形で背、尾の羽根が刻まれ、円筒部には足も刻まれています。馬形埴輪（写真3）は、鞍、障泥、雲珠などの馬具を装着し手綱も描かれています。家形埴輪（写真4）は、寄せ棟造りで、屋根には4本の鰹木がのせられ、窓、入口も表現されています。

- ・講演会　とき　7月30日(日)午後1時30分から  
テーマ　「埴輪の世界」  
講師　奈良国立文化財研究所飛鳥資料館  
学芸室長　猪熊兼勝氏
- ・講演会　とき　8月20日(日)午後1時30分から  
テーマ　「南伊勢の古墳」  
講師　松阪市教育委員会　下村登良男氏
- ・映画会　とき　8月6日(日)午前11時から・午後2時から  
上映映画　「日本の古墳」ほか
- ・展示説明会　とき　8月27日(日)午前11時から・午後2時から



1



2



3



4



## 春季特別展から

「尾張のもめん—そのルーツを求めて—」

平成元年4月28日～5月28日

一宮地方の代表的な織物には、結城縞・棧留縞等があり、縞織りの技術は京都（西陣・西洞院）、美濃経由で伝えられたといわれます。また伊勢松阪でわが国最初の縞柄が織りだされ、伊勢商人との交流の中で知多木綿が生産されました。

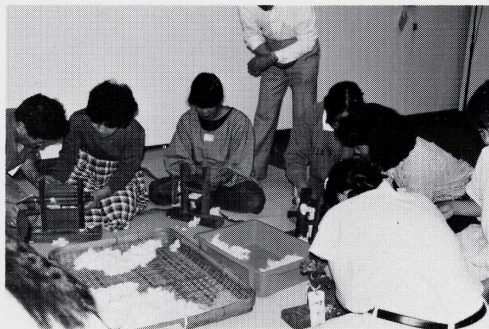
この特別展は、わが国最初の縞木綿といわれる松阪木綿やそれと連関のあった知多木綿、さらに当地方に直接的影響のあった美濃縞などとの比較を通じて、一宮の縞木綿生産のルーツを辿ったも



機道具の技術伝承

ので、女物衿長着を始めとした90点余を展覧しました。

## 繊維講座はじまる



繊維講座実習風景

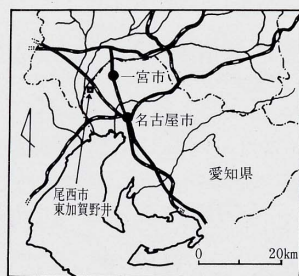
当館では、5月14日から繊維講座を始めました。本講座は一宮地方の縞木綿の歴史を辿るとともに、その縞木綿に関する技術の保存及び伝承についての実技を習得することを目的としています。開講日は毎月第2・第4日曜日（12月休講）で全20回を予定しています。定員20名は、募集開始間もなく締め切らせていただきました。

## <オカッテに訪問!!> ブンタコをつくる

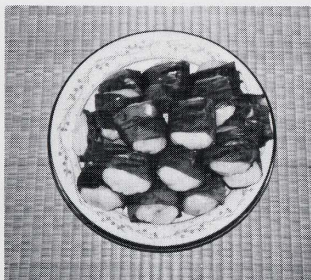
ブンタコ……何か妙な名前であるが、これはミョウガの葉で包んで蒸したまんじゅうのことである。1988年10月14日に尾西市東加賀野井の小塚ちえさんのお宅で、ブンタコづくりを見せてもらった（第1図）。

まず、材料は庭からとってきたミョウガの葉。これは6月中頃から旬になる。その他に小麦粉、小豆、ざらめ、塩。小豆は半日ほどひやかして（水につけて）おき、ざらめと塩で3時間ほどたく。

小豆をたくときは、2～3回湯を捨てアクを抜く。小麦粉には少し砂糖を入れて熱湯を注ぐ。これを菜箸でかきまぜたあと、耳たぶくらいの柔らかさになるまでこねる。親指と人差指を使って生地からダンゴをつくり出し、手でたたいて平にし、あんこを包んでミョウガの葉で巻く。昔は三升蒸しのセイロでこれを10分ほど蒸した。ミョウガの葉の色を殺さないのがコツである。ブンタコは、鍬あげや農あがりなど特別なときに作ったものだった。サンキライ（サルトリイバラ）や竹の葉を使うことはなかったという。



第1図 東加賀野井の位置



家の庭には、押しずしに使うハランやミョウガ、柿の木などが必ず植えられていたものである。これらの植物は鑑賞するのではなく、日々の生活の中で利用された。ブンタコもその生活の知恵の一つと言える。（田中禎子）



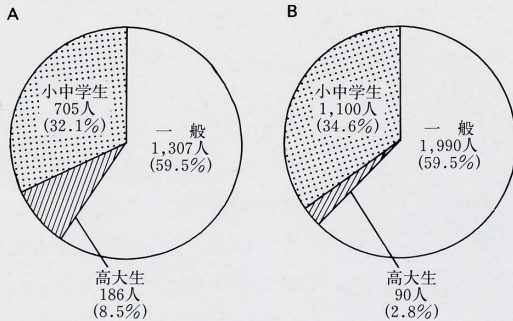
博物館日誌(抄) (1.2.1~1.5.31)

- 3.4 企画展「村の飾り馬具」  
~4.2
- 3.26 講演会「馬と祭礼」  
講師 名古屋市文化財調査委員 津田 豊彦氏
- 4.28 春季特別展「尾張のもめん  
~5.28 —そのルーツを求めて—」
- 4.30 講演会「尾張の縞木綿とその周辺」  
講師 愛知県立起工業高校講師 佐貫 尹氏
- 5.7 講演会「木綿のある生活  
—木綿の導入から定着まで—」  
講師 関西大学経済学部教授 角山 幸洋氏
- 5.14 ビデオ鑑賞会  
「文化編 自然・コットン・人間」  
「栽培編 コットン・品種と栽培」
- 5.14 繊維講座開講
- 5.21 機道具の技術伝承に関する実演と  
実技指導  
講師 丹羽正行氏・高木宏子氏
- 5.28 繊維講座第2回

展覧会開催中の入館者数

- A. 企画展「村の飾り馬具」  
(3月4日~4月2日) 2,198人
- B. 春季特別展「尾張のもめん  
—そのルーツを求めて—」  
(4月28日~5月28日) 3,180人

<入場者の階層別組成>



「村の飾り馬具」展 「尾張のもめん」展

【民俗展示室の模様替え】

博物館では、「ひな祭り」「5月の節句」「秋祭りとお月見」など季節ごとに民俗展示室の一部を展示替えしてきました。今年の夏の展示は「夏の暮らし」と題し、<sup>みの</sup>養や蚊帳、七夕祭りのうちわなどを展示しています(8月31日までの予定)。



「衣替えのころ」(88.5.26~88.9.14)

これからの博物館

- 企画展 「郷土の文人画」 9/9~10/8
- 特別展 「一宮の名宝(Ⅲ)」 10/21~11/23  
妙興寺所蔵の新指定重要文化財を始めとして、市内の名宝を展覧します。
- 企画展 「兼松正吉」 12/23~1/28  
一宮出身の戦国武将兼松正吉に焦点を当て、当地の戦国から江戸時代への移行期を探ります。
- 企画展 「木曾川とくらし」 2/24~3/25  
木曾川下流域の人々の生活の道具を展覧します。

利 用 案 内

開館時間

午前9:30~午後5:00  
(入館は午後4:30まで)

常設観覧料

区分	個人	20人以上の団体
一般	200円	160円
高・大	100円	80円
小・中	50円	40円

(1人1回)

休館日

- 毎週月曜日  
(ただし、休日にあたる場合は翌日を休館)
- 休日の翌日  
(ただし、日曜日又は休日の場合は開館)
- 年末・年始  
(12月28日→1月4日)

名鉄電車「妙興寺駅」下車徒歩5分

一宮市博物館だより 第6号

平成元年7月22日

編集・発行 一宮市博物館

〒491 一宮市大和町妙興寺2390番地

TEL 0586-46-3215

FAX 0586-46-3216